

邑(むら)の映画会実行委員会は、群馬県の「映像教育」の発展を目指し、世界で製作された多様な映画作品の上映やワークショップ活動を行っています。この会を通して、子どもたちが夢をふくらませ、映像文化によって心豊かな感性が育めることを願っています。



リュミエール最初の映画

1895年/フランス/15分/16mm/白黒
実写/撮影:ルイ・リュミエール

今から120年前、リュミエール兄弟が世界で初めて映画を作った。この映画には人々の身近な生活が映っていた。仕事が終わって工場から出てくる人々を映した「工場の出口」。列車の到着を見た人は「ひかれる」と、びっくりしてにげだした。邑の映画会のために、アンスティチュ・リュミエールのティエリー・フレモア所長さん(カンヌ映画祭総代表)が、「子どもたち、見てね!」と、大切なフィルムの上映をプレゼン特してくれた。

©Institut Lumière
フィルム提供:
東京国立近代美術館フィルムセンター



月世界旅行

1902年/フランス/15分/デジタル
白黒/実写/監督:シヨルジュ・メリエス

今から110年前、月旅行へのあこがれを映画にした。天文学会のメンバーである6人の学者が、月への旅行を計画する。彼らをのせたロケットは月に向かって大砲で打ち上げられた。月面に到着!そこは、見たこともない世界だった。博士たちは、宇宙人に捕まった。はたして地球にもどれるのか…。機械じかけの大きなセットでトリックいっぱいある映画。さあ、何が映っているのかよく見てね。メリエス監督も隊長で、出ているよ。

©Steamboat Films-Lobster Films-2011
DVD提供:株式会社 新日本映画社



シュツ・シュツ

1972年/カナダ/14分/16mm/カラー
監督:コ・ホードマン

子どもは、つみ木がだいすき。いえをつくったり、でんしゃをはしらせてあそんだり、どうぶつだつてつくられるよ。つみ木の町でたのしくあそぶおともだち。そこにとつぜんあらわれた、ドラゴン! つみ木の町をこわしてしまふ。二人がおうちをなおしても、またやってきて、こわしてしまふ。どうしよう…。カタコト、クルクル、トコトコ、うごく。ホードマンかんとくも、つみ木であそんでいるんだね。ゆめいっぱい、つみ木のアニメーション。

©National Film Board of Canada
フィルム提供:こどもの城



砂の城

1977年/カナダ/13分/16mm/カラー
監督:コ・ホードマン

子どもは、砂がだいすき。山だつて、川だつて、ケーキだつてつくられるよ。砂は風にふかれてさらさらうごく。砂からうまれた生きものは、みんなでお城をつくるんだ。おどったり、もぐったり、でんぐりがえししたり。えいが見た子はいう。ドキドキして「こんなにつくれねえ!」って。目をまんまるにしておどろき、わらう。でもね、風がピューピューふいて…砂のアニメーション。

アヌシー国際アニメーションフェスティバルグランプリ受賞
©National Film Board of Canada
フィルム提供:こどもの城



鬼

1972年/日本/8分/35mm/カラー
監督:川本喜八郎

「昔、あるところに狸師の兄弟が年老いた母親と住んでいた。…」母親が鬼の目で息子たちを見ていたという話(今昔物語)をもとに、三味線と尺八の音楽にあわせて、文楽調の人形が動く。人形にあてられる光と影、背景の漆黒、金時絵の世界。川本監督の生み出す人形に、日本の伝統文化がその命を吹き込む。こわいけれども、美しい。日本が世界に誇る傑作人形アニメーション。

1974年メルボルン映画祭特別賞受賞
©有限会社 川本プロダクション
フィルム提供:
東京国立近代美術館フィルムセンター



夢想の森

2010年/フランス/53分/デジタル/カラー
監督:アントワーン・バロー

小栗康平監督に魅せられたバロー監督(フランス)が来日し、小栗康平の世界をドキュメンタリー映画として製作した。映像のフレームの中心に人間を置くから、言葉が作りだす物語ではなく、語りだせない。人間が優位に立っているのではなく、自然の中にまぎれている。まじりあって感じとる。感覚世界が非欧米社会にはある。夢を見る。夢って不思議で、どこかで自由。生まれた子どもが見ていた世界は丸ごと不思議。夢を見たり優れた芸術にふれたりした時は、一挙に解き放たれて…そういう瞬間がすばらしい。



裸の島

1960年/日本/96分/35mm/白黒
監督:新藤兼人

瀬戸内海の島に暮らす父母兄弟4人の、生きる、痛み、喜び…を描く。電気も水も人もいない。毎日、隣の島まで舟をこぎ、桶にくんだ水を天秤棒でかついで、島の上まで運び上げる。映像に深く表現される、自然と人とのかかわり。台詞なしの映画だが、じかし、人間が失うことのない時折の、声、音…。目まぐるしく動く現代の時間の中で、自然の中で暮らすこと。もう一度、立ち止まって静かに考えたい。

モスクワ国際映画祭グランプリ受賞
©近代映画協会

邑の映画会によせて

前作の「埋もれ木」が9年前。この「邑の映画会」は今年で7回目。私はやっと新作を撮り始めました。画家の藤田嗣治を題材とした日仏合作映画「FOUJITA」です。

年内は撮影で、映画会には参加できません。いろいろな思いを持ちながら、映画会へ熱いエールを送ります。

邑の映画会顧問 映画監督 小栗康平

プロフィール

1945年前橋市生まれ。早稲田大学第二文学部演劇専修卒。81年の監督第一回作品「泥の河」はモスクワ映画祭銀賞、米アカデミー賞外国語映画賞ノミネートなど高い評価を受け、以後、84年「伽椰子のために」(仏ジュルジュ・サドゥール賞)、90年「死の棘」(カンヌ映画祭グランプリ/カンヌ1990/国際批評家連盟賞)、96年の県人口200万人記念映画「眠る男」(モントリオール映画祭審査委員特別大賞)、05年「埋もれ木」(カンヌ映画祭特別上映作品)公開。著書「映画を見る眼」「時間をほどこ」他

主催 □ 邑の映画会実行委員会 / 邑楽郡邑楽町光善寺275-2
協力 □ Institut Lumière(フランス)

National Film Board of Canada(カナダ)
東京国立近代美術館フィルムセンター
こどもの城

アントワーン・バロー監督

協賛 □ 館林西ロータリークラブ / 社会福祉法人 館邑会
高源寺 / 恩林寺 / 大信寺 / 加藤医院

後援 □ 邑楽町 / 邑楽町教育委員会 / 邑楽町立小中学校
PTA連合会 / 邑楽町立幼稚園PTA連合会 / 邑楽町立保育園
保護者会連絡協議会 / 風の子保育園保護者会 / 邑楽町文化協会 / 邑楽町公民館 / おうらやんぐプラザ / 長柄公民館
各利用団体連絡協議会 / 群馬県 / 群馬県教育委員会 / 館林市教育委員会 / 板倉町教育委員会 / 明和町教育委員会 / 千代田町教育委員会 / 大泉町教育委員会 / 上毛新聞社 / 朝日新聞前橋局 / 毎日新聞前橋支局 / 読売新聞前橋支局 / 産経新聞前橋支局 / 東京新聞前橋支局 / 群馬テレビ / エフエム群馬



会場交通案内

東武小泉線本中野駅より徒歩5分。北関東自動車道太田・桐生ICより20分。